



山の辺の道は、三輪から奈良へと通じる上古の道。

- ・自然を大切にじょじょづ
- ・「ゴミ持ち帰り運動」にご協力下さい



発行者 山の辺の道美化促進協議会  
構成団体 奈良県・天理市・桜井市・天理市観光

構成団体 奈良県・大垣市・桜井市・大垣市観光協会・  
一般社団法人桜井市観光協会・近鉄・JR西日本・奈良交通

## 天理ライオンズクラブ・桜井ライオンズクラブ

お問い合わせ：天理市産業振興課 Tel.0743-63-1001

・ 大理市産業振興課 Tel.0743-63-1001  
桜井市観光まちづくり課 Tel.0744-48-3110

# 山の辺の道 ハイキングコース



## 石上神宮

歴代の天皇の崇敬が厚く、神庫には多くの武器が収められ、武器についての伝承が多い神社で、神功皇后の攝政5年に百濟の使者が献じたという七支刀(ななつさやのたち)(国宝)も伝えられている。祭神は布都御魂大神(ふつのみたまのおおかみ)といわれる神劍。奈良朝以前から神宮の号を使つたのは伊勢神宮とここだけである。



**竹之内・菅生環濠集落**  
奈良盆地には環濠集落が多いが、竹之内は標高約100mで、県内ではもっとも高地にあるとされる。南北朝時代から筒井順慶による統一まで、大和の戦国乱世が生んだ自衛の集落で、周囲に用水池を兼ねる濠を、内部に竹やぶを植えこんだ。竹之内のほか、菅生にも同様の集落が残る。

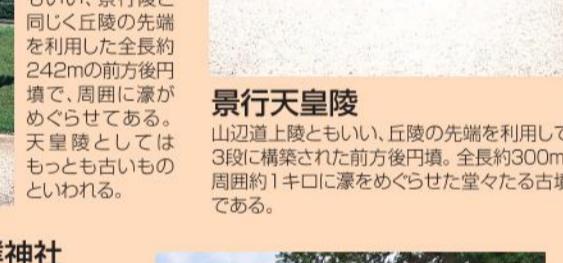


## 大和神社

山の辺の道より西に位置し、鬱蒼とした森が広がり350mもの参道を抜けると、大和神社がある。4月1日には、大和にいち早く春を告げる「ちゃんちゃん祭」が行われる。また、9月23日には、市無形民俗文化財に指定されている、雨乞瀧頭の「紅幣(べにじ)」踊りが奉納される。

## 黒塚古墳

柳本古墳群の一つで、全長約130mの前方後円墳。平成10年(1998)に、卑弥呼の鏡ともいわれる33面もの三角縁神獣鏡が出土した。隣接する黒塚古墳展示館内には、豊穴式石室が原寸大で復元されており、鏡や鉄製品のレプリカ等が展示されている。



## 相撲神社

穴師坐主神社参道脇にあり、相撲発祥の地と伝えられている。旧蹟力士ヤケシがあり、野見宿禰が祀られている。



## 桧原神社

大神神社の摂社のひとつで、三輪山中にある磐座を神体としているので本殿はない。天照大御神を祀り、元伊勢とも呼ばれている。井寺池周辺には川端康成、東山魁夷などの万葉歌碑が立ち、空間の中における風景を見せていている。



## 三輪山

48峰といわれる峰々から成り、笠を伏せたような山容が美しい。古代からもっとも聖なる山とされている。三輪山は、春日山系では珍しく斑岩(はんらいがん)で形成され、山中には巨大な岩が数多く露出している。これらの岩石群は、山頂付近の奥津磐座(おくついわくら)、中腹の中津磐座、山麓の辻津磐座というように呼ばれ、それぞれの磐座には大物主神、大己貴神、少彦名神が鎮まるといわれている。

## 箸墓

大きな前方後円墳。全長280m、後円部の直径は157m、高さ23m。前方部の幅は25m、高さ13m。孝靈天皇の皇后で崇神天皇の叔母であつた倭迹日百襲姫(やまととひももぞひめ)命の墓である。周囲には周濠の一部がいまも残っている。



## 金屋の石仏

金屋の村はいずれにある収蔵庫に収められている2体の石仏。いずれも高さ2.14m、幅83.5cm、厚さ21.2cmの2枚の泥板岩に釘頭如来像(右)、弥勒如来像が浮彫りにされている。平安時代でも後期の造立と考えられる。

## 平等寺

明治の神仏分離で完全に廃絶した。明治13年(1880)に翠松寺として旧平等寺の山門付近に再建され、昭和52年にもとの「平等寺」に復してある。本堂、不動堂のほか、江戸時代の仏足石などがある。



## 仏教伝来之地碑

欽明天皇の時代に百済の聖明王の使節が訪れ、新迦陀の金剛像一軀と經論若干巻等を献上し、日本に仏教を最初に伝えたといわれている所。また、海柘榴市觀音堂を含むこの一帯を日本最古の市のあつた海柘榴市跡と呼び、山の辺の道の南の起点、到着点。



北

天理駅 2.1km 40分

石上神宮



2.5km 60分

夜都伎神社

2.9km 50分

長岳寺

1.4km 20分

景行天皇陵

2.5km 40分

桧原神社

1.5km 35分

大神神社

1.1km 15分

海柘榴市觀音

南